

駅前空間の設計方針と全体計画

飯田・リニア駅前空間デザインノート

設計方針

1：アクセスやバリアフリーに優れた駅前空間

- ・広域へアクセスしやすい北側交通広場と、地域の人々が使いやすい南側乗降場で、安全で利便性の高い乗換えを実現します。
- ・わかりやすく、乗換えしやすい駅空間とします。
- ・天候にも対応したバリアフリー環境とし、サイン類をはじめユニバーサルデザインとします。

2：住民や来訪者の居場所となる駅前空間

- ・駅を中心に南北をつなぐ広場を設け、人が主役の緑とにぎわいの空間をつくります。
- ・リニアに乗る人も乗らない人も、若い世代も高齢世代も楽しめる空間とします。
- ・広場は、大小様々な使い方ができ、居心地の良い空間とします。
- ・伝統文化の継承や地域コミュニティを高める空間とします。

3：伊那谷の風景の魅力を引き出す駅前空間

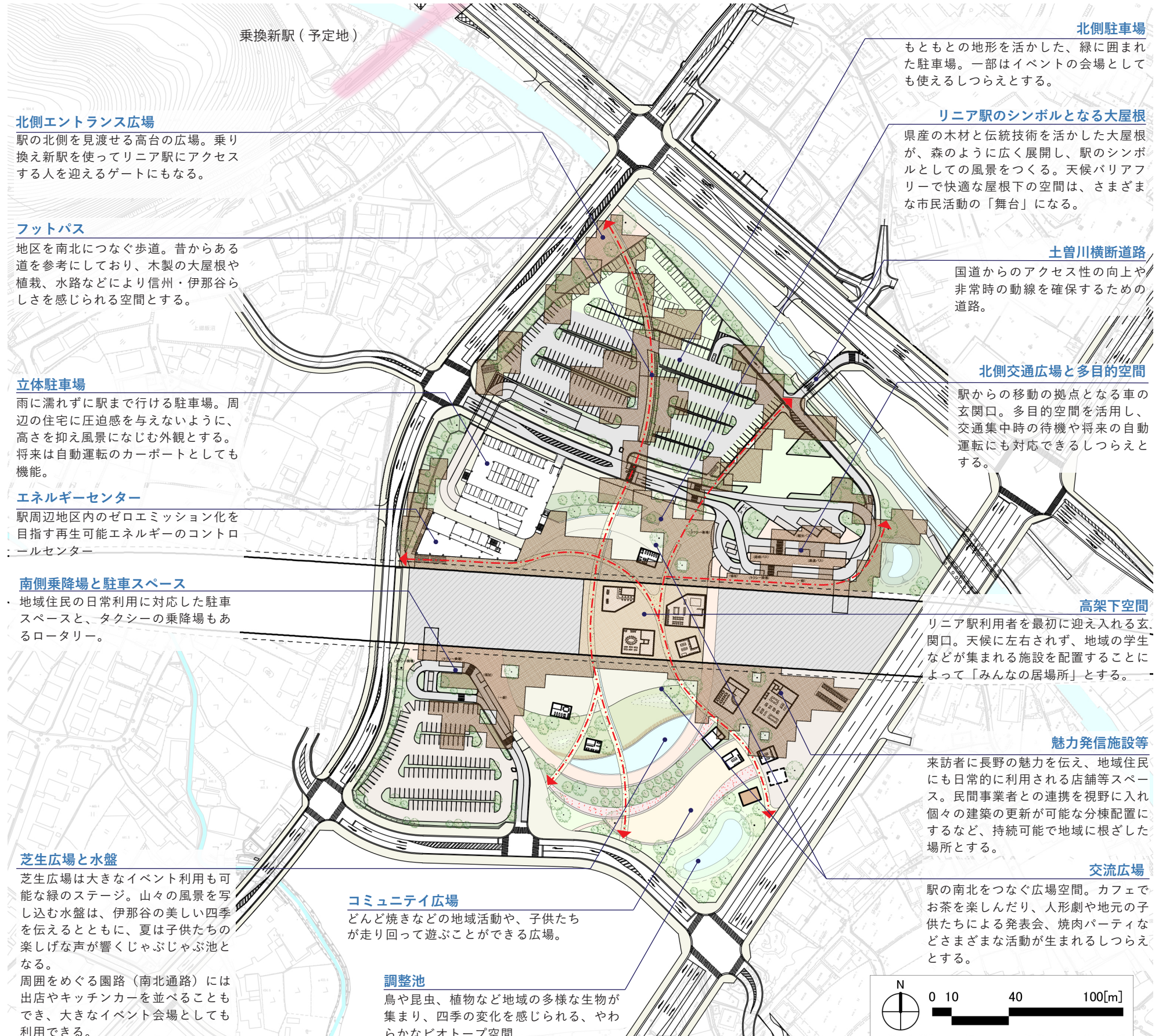
- ・地域風土の特徴を活かし駅を出た瞬間から信州・伊那谷らしい風景を五感で味わえるランドスケープとします。
- ・人が主役の広場と地場材を利用した大屋根により、自然の魅力と都市的な魅力が融合した、ここにしかない空間をつくります。
- ・歩くのが楽しくなる回遊性の高い駅前空間とします。

4：人のつながりと伊那谷全域へといざなう駅前空間

- ・人と人の出会いや、人とモノの出会いが生まれる空間とします。
- ・魅力的な地域や店舗、伝統芸能やアクティビティなどの情報を提供し、長野県や伊那谷全域へいざなうきっかけをつくります。
- ・近隣住民の生活環境を守りつつ、周辺に良い波及効果を生み出すよう、周辺地域との回遊性を確保します。
- ・将来にわたり活用されるよう、運営者・事業者の様々なニーズに対応できる空間とします。

5：時代を先取りし、変化に対応できる計画

- ・さまざまな使い方ができるフレキシブルな空間とします。
- ・自動運転や次世代モビリティ、再生可能エネルギーに加え、ライフスタイルの変化など社会のニーズに対応できるようにします。
- ・グリーンインフラを積極的に用い、環境に優しく、防災機能と維持管理に優れる、持続可能な空間をつくります。



2019年3月26日デザイン会議時点の検討資料のため、今後内容が変更されることがあります。